

第4章

プラン実現のための戦略と主な取組

戦略Ⅰ 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ

基本的な考え方

「暮らす人」「訪れる人」の双方の目線から、北九州市の歴史・文化・食、夜景、スポーツ、自然、産品などを改めて発掘し磨き上げ、それを「ストーリー」として「プラスワン観光」に結びつけるための施策に取り組みます。

今後の取組方針

戦略Ⅰ－Ⅰ 北九州市が誇る歴史・文化・食の魅力発掘・一層の磨き上げ

北九州市は、幅広い観光客を惹きつける魅力的な観光資源を多く有しています。その中でも、歴史・文化・食は代表的な観光資源です。こうした代表的な観光資源の一層の磨き上げに取組むとともに、北九州市の観光の顔となる3地区を重点エリアと定め、それぞれの地区の特徴を活かした積極的な魅力発掘、さらなる磨き上げに取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・ 小倉城とその周辺の魅力向上
- ・ 門司港レトロ・和布刈地区の魅力向上
- ・ 【新】市内を一望できる絶景・皿倉エリアの魅力向上
- ・ 「ものづくりのまち」北九州の魅力を体験できる産業観光コンテンツの開拓
- ・ 北九州市の魅力あふれる食のPRや新たな名物・おみやげものづくりの検討

<地区別アクションプラン>

「小倉都心部」「皿倉・東田地区」「門司港レトロ・和布刈地区」の3地区を重点エリアと定め、観光振興プランのリーディングプロジェクトとします。また、地区別アクションプランによる3地区への来訪者の増加とともに、3地区以外のエリアの魅力の訴求を行い、来訪者の市内全域への周遊促進、もう一か所、もう一泊の「プラスワン観光」へと結びつけることを目指します。

小倉都心部

『歴史・文化から食・エンタメまで、多様な魅力であふれる都市型観光拠点』

- 1日を通していつでもまち歩きを楽しめる環境整備
- 小倉城・小倉城庭園の集客力向上による域内周遊の促進 など

皿倉・東田地区

『北九州市の「現在」「過去」「未来」をすべて学び、楽しめる“まちごとミュージアム”』

- 皿倉山頂施設の一層の魅力向上
- 東田地区内の回遊性の向上 など

門司港レトロ・和布刈地区

『九州最北端の港町リゾート』

- ガイドライン策定やターゲットの明確化によるブランディング構築
- 観光DXやパブリックアートを活かした集客 など

戦略Ⅰ－２ 新しい魅力の発掘・創出

「暮らす人」の目線から見ると、観光資源としては気づいていなかった魅力が、北九州市にはまだまだあります。また、これまでになかった切り口や新たな技術とのコラボレーションによって、新しいコンテンツを創出することも可能です。

例えば、若松北海岸、平尾台、河内に代表される自然景観など、北九州市の魅力を改めて観光資源として見つめ直し、社会環境の変化や観光のトレンドを意識しながら、食の提供や、マリンスポーツ、農業・漁業体験などを観光資源として活かす取組を進めます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】観る・応援する・参加するスポーツツーリズムの振興、ワーケーション、コワーキングスペース※4の利用者などへの観光PR
- ・若松北海岸や平尾台など自然を活かした体験型、滞在型観光の促進
- ・ポップカルチャー、映画やドラマ等のロケ地など、文化芸術を活かした誘客促進
- ・まち歩きがしたくなる居心地のよい空間づくり
- ・【新】民間活力を活用したカフェ・グランピング施設の設置

戦略Ⅰ－３ 夜景を中心とした夜型観光の魅力向上

北九州市は、「日本新三大夜景都市」全国一位に認定されており、8つの「日本夜景遺産」や「工場夜景」などバラエティ豊かな夜景が高く評価されています。この夜景を中心に、地元商店街や飲食店などとの連携強化、夜間、早朝の魅力を体験できるイベントや快適な夜間観光を楽しめる環境整備などに取り組めます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進
- ・夜間、早朝での誘客イベントの実施
- ・ライトアップによる夜間景観の向上や安全安心な夜景観賞のための環境整備

戦略Ⅰ－４ もう一か所、もう一泊を促す「プラスワン観光」につなげる観光資源、文化関連施設の「ストーリー化」

個々の観光資源の魅力向上とともに、それらを歴史や文化、人、食、まちなどのストーリーでつなぐことによって、よりディープな魅力が生まれます。ビジネスやスポーツ観戦客などが立ち寄りたくなる魅力の発信、効率的に市内を周遊できる環境の整備、観光施設間の連携強化などにより、もう一か所、もう一泊につながる「プラスワン観光」の促進を図ります。

【推進していく主な取組】

- ・【新】歴史や文化などのストーリーを意識した観光モデルコースの磨き上げ
- ・【新】(再掲)宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進
- ・【新】(再掲)観る・応援する・参加するスポーツツーリズムの振興、ワーケーション、コワーキングスペースの利用者などへの観光PR

※4 コワーキングスペース…さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペース

戦略Ⅱ ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション

基本的な考え方

人口減少などによって国内観光市場が縮小する中で、北九州市のファンやリピーターを生み出し続ける重要性が高まっています。

ファンやリピーターを生み出し続けるためには、まず「暮らす人」が北九州市を深く知り、地域への愛着や親しみを抱いて、ディープな魅力を発信することが重要です。また、そうした情報を、個人観光客、ビジネス客、外国人観光客、修学旅行客などの分野別に、効果的な方法で発信することに取り組みます。

今後の取組方針

戦略Ⅱ-1 市民や近郊在住者が自ら発信したくなる仕組みづくり

「暮らす人」が自ら北九州市の魅力を発掘し、SNSなどを活用して発信するきっかけとなる仕組みを構築します。

【推進していく主な取組】

- ・【新】パブリックアートなど気軽に発信できるフォトスポットづくりの検討
- ・写真や動画等のコンテストの実施など市民や来訪者自身による発信を促す仕組みづくり

戦略Ⅱ-2 旅マエからわくわくするディープな北九州市の発信

戦略Ⅱ-1などで得られるディープな(わくわくする)北九州市の魅力を集約し、気軽に行きたくするような情報発信ができる仕組みを整えます。

【推進していく主な取組】

- ・北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」や観光案内所での個々のニーズに合わせた案内機能の強化
- ・市民もメディアも活用できるフリー素材の一層の充実
- ・地域の魅力を伝える地元ウェブメディアなどとの連携強化
- ・【新】市民が自ら体験し、魅力を発信する「クチコミ」を活かす仕組みの検討

戦略Ⅱ-3 ビジネス・MICEなど様々な目的で訪れる方への「プラスワン観光」を促すプロモーションの強化

ビジネス・MICEで訪れる来訪者も、北九州市の重要なゲストです。業務や会議が終わった後、北九州市の魅力を楽しんでもらう「プラスワン観光」を積極的に生み出します。

【推進していく主な取組】

- ・アフターコンベンションなどで楽しめる観光資源の一層の強化とその発信
- ・【新】(再掲)宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進
- ・(再掲)北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」や観光案内所での個々のニーズに合わせた案内機能の強化

戦略Ⅱ-4 インバウンドへの戦略的対応

インバウンド市場はこれからも拡大が期待できる重要市場であり、北九州空港を有する北九州市は、その玄関口として重要な機能を有しています。本市を訪れる外国人観光客の約8割を占める韓国・台湾・中国・香港の方々は、日本のリピーターも多いことから、ディープな本市の情報や快適で楽しい体験を提供することによって、さらなる集客に取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・ 北九州空港・福岡空港を軸にした多角的な誘客プロモーション
- ・ 大規模イベント・スポーツ大会などの機会を活かした情報発信
- ・ 【新】観光施設などの多言語案内の強化
- ・ 【新】観光施設におけるキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進

戦略Ⅱ-5 北九州市の強みを活かした修学旅行・産業観光のコンテンツ強化

北九州市は公害を克服した歴史、SDGs教育に適したコンテンツのほか、日本の近代化に貢献した産業遺産を見学・体感できる産業観光などが充実しています。こうした強みをさらに活かし、体験メニュー、学習プログラムを一層充実、開拓していくことで、修学旅行や産業観光の拡大に取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・ SDGs未来都市北九州ならではの修学旅行用メニュー、体験学習プログラムの充実
- ・ (再掲)「ものづくりのまち」北九州の魅力を体験できる産業観光コンテンツの開拓

戦略Ⅱ-6 MICEやイベントなどの誘致強化

北九州市は、グローバルMICE都市として、大規模集客イベントや国際会議、学会などを積極的に誘致しています。引き続き、脱炭素、DXなど社会ニーズを的確に捉え、市内産業の振興や集客に資する誘致活動とともに開催環境の快適性向上にも取り組んでいきます。

【推進していく主な取組】

- ・ 社会ニーズに対応した大規模集客イベントなどの誘致
- ・ 安全安心・快適なMICE開催のための設備・機能強化

戦略Ⅲ 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備

基本的な考え方

北九州市のファンやリピーターを生み出し続けるためには、ストレスのない快適な移動、滞在といった観光を楽しむための基盤整備が不可欠です。また世界的に進展する観光DXを推進することは、観光産業の生産性の向上や効率化によってもたらされた時間をおもてなしに集中させることができるなどメリットがあるとともに、環境にやさしい観光やマーケティングデータの収集・分析につながります。

今後の取組方針

戦略Ⅲ－1 誰もが快適かつスマートに北九州市の観光を楽しめる公共交通の利用促進
インバウンドなど遠方から「訪れる人」や地域の方などの「暮らす人」が目的地まで効率よく快適に移動できることは重要です。

また、デジタルチケットと連携した公共交通の利用促進などを通じ、交通渋滞の緩和や温室効果ガス排出量の抑制を実現する取組も重要です。

【推進していく主な取組】

- ・【新】観光分野でのMaaSの活用、西鉄バス・JR・タクシーなどとの連携強化
- ・【新】市内周遊パスの発行など、公共交通機関を利用した周遊促進策の検討
- ・【新】環境にも利用者にも優しいグリーンスローモビリティなど新たな移動手段の検討

戦略Ⅲ－2 訪れる人がストレスなく観光を満喫できる環境づくり

観光地において、ハード・ソフト両面でバリアフリーやユニバーサルツーリズムを進めることは、訪れるすべての人をお迎えする、おもてなしの心を形にする方法の一つです。ストレスなく北九州市の観光を楽しめる環境の整備を進めます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】皿倉山など観光施設のおもてなし機能の向上
- ・【新】旅の目的地となるような観光ホテル誘致の検討
- ・【新】観光庁「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の宿泊施設や観光施設での普及促進などユニバーサルツーリズムの推進
- ・【新】(再掲)観光施設におけるキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進

戦略Ⅲ－3 観光DXの推進による利用者の利便性・満足度の向上や、事業者の生産性向上

情報、移動・まち歩き、宿泊、体験など観光のあらゆる分野でDXの推進が期待されています。情報のデジタル化やキャッシュレス対応、デジタルチケットといった基盤整備とともに、XR(クロスリアリティ)^{※5}やビッグデータといった、新しい技術も積極的に活用して、観光客の利便性や満足度向上、観光産業の生産性向上などに取り組んでいきます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】観光案内機能のデジタル化の検討
- ・【新】XR(クロスリアリティ)を活用した観光コンテンツの検討
- ・ビッグデータなどデジタルテクノロジーを活用したマーケティングの強化
- ・【新】(再掲)観光施設におけるキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進

※5 XR(クロスリアリティ)・・・現実世界と仮想世界を融合して、新しい体験を作り出す技術の総括

戦略Ⅳ 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり

基本的な考え方

多くの「暮らす人」「訪れる人」が、何度も訪れ、楽しんでもらえる状態を持続していくためには、市内外の関係機関などとの連携、さらにコロナ禍で高まった危機管理やSDGsの推進、北九州市の観光の最前線に立って訪れる人をもてなす役割を担う人材の育成が重要です。

こうした観光振興プランの推進を担う体制や仕組みを構築し、プランの確実な実施に向けた体制づくりに取り組みます。

今後の取組方針

戦略Ⅳ－1 観光関係の組織や企業・個人など、北九州市の多様な主体と連携し、推進する体制の構築

観光振興プランの推進には、行政、観光コンベンション協会、宿泊、交通・運輸業をはじめ、飲食、小売業など、観光に関わるあらゆる産業や組織の参画が不可欠です。

北九州市の観光地域づくり法人(DMO)の登録に向けた取組などを通して、こうした推進体制を強化していきます。

また、これまで以上に、民間のノウハウや資金や技術、経営能力などを取り込む機会の拡大、環境づくりに取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】企業が観光分野の担い手として挑戦・投資・参入しやすい環境づくり
- ・【新】登録DMOの設立に向けた、民間事業者などが主役となった推進体制の構築

戦略Ⅳ－2 国、九州観光機構、県、北九州都市圏域、山口県などと連携する広域観光推進の体制づくり

広域観光の推進は、特にインバウンドなど遠方からの「訪れる人」に対する情報発信や周遊ルート構築に効果があります。また、県内市町村や隣県との連携により、観光資源を相互に結びつけることで、個々の資源の魅力の相乗効果が期待できます。それにより、地域全体で魅力を高め、宿泊観光や滞在時間の延長につながることも可能になってきます。

引き続き、九州観光機構や北九州都市圏域を構成する周辺市町などと連携しつつ、北九州市を起点、あるいは終点とした広域観光の推進に積極的に取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・北九州都市圏域(18市町)による協議体の活用
- ・宿泊観光・滞在時間延長につながる九州内や周辺地域との連携の充実

戦略Ⅳ-3 宿泊税の使途を戦略的に検討できる体制づくり

宿泊税は、持続的な観光振興のための大切な財源であり、観光資源の魅力向上および情報発信、受入環境の充実などのために、戦略的・効果的に活用する必要があります。

今後の観光の方向性などについて、観光事業者や宿泊事業者・有識者などの意見を集約しつつ、宿泊税の活用方法(使途)をチェック・検討する体制を構築します。

【推進していく主な取組】

- ・【新】宿泊税の使途などを検討する外部有識者などによる会議体の設置

戦略Ⅳ-4 災害や感染症などへの危機管理体制の強化

観光危機管理の目的は、危機・災害時の旅行者・観光客の安全確保と観光関連事業者の事業継続を確実にすることです。危機や災害が発生した時に旅行者・観光客の安全を確保することは、観光地と観光関連事業者の重要な役割です。

また、観光が地域の社会や経済を支える重要な柱となっている今日において、観光関連事業者の事業を守ることは、災害後の地域経済の復興にとっても大切です。訪日外国人を含めたあらゆる「訪れる人」に対して、危機・災害時の支援策を整えるとともに、正確な情報を迅速に発信する体制を整えます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】危機事象におけるウェブや観光案内所などでの情報発信体制の整備
- ・【新】訪日外国人も災害時などに必要な支援策や情報が入手できる体制づくりの強化

戦略Ⅳ-5 観光振興を通じたSDGsの取組の推進

環境にやさしい観光は、地域の自然を守りながら観光業を活性化させ、市民の暮らしを良くしていくものです。北九州市に「暮らす人」の日常での環境にやさしい取組を、「訪れる人」も滞在中に自ずと取り組むことができる環境整備など、観光振興を通じたSDGs未来都市の推進・発信に取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・【新】観光におけるEVバスへの移行など脱炭素に向けた取組の検討
- ・【新】観光事業者や観光客による脱プラスチックやフードロス削減など自然環境への負荷が少ない観光の取組の推進
- ・(再掲)SDGs未来都市北九州ならではの修学旅行用メニュー、体験学習プログラムの充実

戦略Ⅳ-6 おもてなしの機能強化・人材育成

「訪れる人」に北九州市の広く深い魅力を楽しんでいただくためには、充実した観光案内やスキルの高いガイドの存在が欠かせません。本市では、現在、観光について学んだ市民約100名が「北九州市観光案内ボランティア」として活動していただいています。観光ガイドは情報を伝えること以上に、訪れる人をゲストとして迎え、ガイドを通してともに楽しみ、最後には友人として送り出す、といった北九州市の観光が目指すおもてなしの最前線に立つ人材となります。

観光案内所の充実や、友人として送り出すことができるガイドの一層のスキル向上など人材育成に取り組みます。

【推進していく主な取組】

- ・観光案内所の充実、スキルの高い観光ガイドの育成強化
- ・【新】趣味や嗜好で観光客とガイドがつながる新たな観光ガイドの検討

コラム 観光地における「おもてなしトイレ」について

きれいで快適なトイレの整備は、観光地や観光施設のイメージアップに加え、集客にもつながる重要な要素の一つです。

近年では、車いすを利用される方、外国人など様々な「暮らす人」と「訪れる人」にとって快適なトイレの普及が「おもてなしトイレ」として各地で進んでいます。

○ トイレの快適性

衛生面や、高齢者や外国人など様々な方にとっての使いやすさの観点から、多くの観光地でトイレの洋式化が進んでいます。また、誰もが安心して利用できるように明るく、清潔なトイレや、乳幼児用のイスやベッドなどの設置が求められます。

○ 高齢者・障害者への配慮

車いすを利用される方も使用しやすいよう、バリアフリーの入り口を用意するなどの工夫も必要です。また、トイレの機能自体を障害者に配慮したものにする 것도大切です。

○ 外国人への配慮

言葉や生活習慣の違う外国人への配慮も重要です。より多くの人にとって分かりやすく、使いやすいトイレにするために、案内表示の工夫や、操作パネルなどの標準ピクトグラム導入の検討も大切です。

北九州市での「おもてなしトイレ」へのリニューアル例

西日本総合展示場新館は、令和3(2021)年にリニューアル工事を行いました。トイレは全て洋式となり、またオストメイト対応のバリアフリートイレも導入しました。さらにベビーベッドやベビーチェア、フィッティングボードなどの設備を新設し、誰もが使いやすいトイレに生まれ変わりました。

改修前の様子



和式トイレ



入口が狭く薄暗い

改修後の様子



明るく、広い導線を確認



ベビーチェア、フィッティングボードが設置されたトイレ



ユニバーサルシートが設置されたトイレ



分かりやすい入口

第5章 地区別アクションプラン

Ⅰ 地区別アクションプラン策定のねらい

今回改訂する観光振興プランでは、過去5年間で最も多くの観光客が訪れ、北九州市の観光の顔と言える「小倉都心部」「皿倉・東田地区」「門司港レトロ・和布刈地区」の3地区を重点エリアと定め、リーディングプロジェクトとして地区別アクションプランを策定します。

この地区別アクションプランは、地元商業団体、観光事業者、交通事業者、まちづくり団体など、幅広い関係者へのヒアリングも行った上で策定し、その魅力の一層の向上・発信に取り組みます。

リーディングプロジェクトの推進による3地区への来訪者の増加とともに、3地区以外のエリアへの魅力の訴求を行い、来訪者の市内全域への周遊促進、もう一か所、もう一泊の「プラスワン観光」へと結びつけることを目指します。



写真:北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」より

2 小倉都心部

歴史・文化から食・エンタメまで、多様な魅力であふれる都市型観光拠点『城下町 小倉』

(1) 地域の強み

ア 小倉のまちについて

1602年に細川忠興によって小倉城が築城された後、城下町小倉は、商業のまち、外国貿易のまちとして栄え、更に、長崎街道をはじめとする九州五街道の起点として重要な地位を確立しました。明治時代には、廃藩置県により小倉県が誕生して県庁所在地となり、その後、福岡県に編入された後も、重工業の発展とともに経済の中心地として栄えました。

現在、鉄道・バス・モノレールといった交通の中心となる小倉駅の周辺は、百貨店や商店・飲食店が立ち並ぶとともに多くの宿泊施設も立地し、北九州市の顔となっています。まちの中心部においては、夏の風物詩である「わっしょい百万夏まつり」や約3万個の竹灯籠を飾り、幻想的な光で彩る市民の力による「小倉城竹あかり」、中心市街地を美しくライトアップする「小倉イルミネーション」など四季折々のイベントが年間を通じて開催され、多くの来訪者でにぎわっています。

さらに、豊富な地魚を活かした「九州前寿司」や小倉の郷土料理である「ぬか炊き」、小倉発祥「焼うどん」など、北九州市を代表するご当地グルメも堪能することができます。

イ まちの魅力

(ア) 地域に根差した歴史・食・伝統文化の集積

- 駅から徒歩10分で江戸期の城下町文化を体感できる小倉城・小倉城庭園
- 市民が愛し、育んできた豊かな食文化とそれを楽しめる飲食店街
- 小倉祇園太鼓やわっしょい百万夏まつりなどの伝統行事

(イ) 文化芸術・エンタメ拠点の集積

- 演劇・コンサートやイベントを楽しめる施設(北九州芸術劇場、北九州ソレイユホール、西日本総合展示場)
- 公営民営問わずバリエーション豊かな文化関連施設(市立美術館分館、松本清張記念館、市立文学館、ゼンリンミュージアム、あるあるcity・漫画ミュージアム、森鷗外旧居など)
- アクセス抜群のミクニワールドスタジアム

(ウ) 利便性の高いMICE拠点

- JR小倉駅やレセプションの開催も可能な大型ホテルに隣接するMICE施設(西日本総合展示場、国際会議場など)

ウ アクセスなど

(ア) 市外からのアクセスの良さ(JR、空港・フェリーからの直行バス、高速道路網)

(イ) 域内周遊の拠点となる豊富な交通手段(JR・バス・モノレール・都市高速網・シェアサイクルなど)

(ウ) ビジネス客から観光客まで幅広い層に満足してもらえるバラエティ豊かな飲食店街

(2) 課題と主な取組

北九州市の玄関口となっている小倉駅周辺には、歴史文化や食、ポップカルチャー、スポーツ観戦など様々な魅力を目的に訪れる人が多くいます。

その訪れる人に、小倉城周辺までエリア一体で回遊してもらい、より長く楽しんでいただく工夫が求められます。

ア 北九州市の玄関口・小倉の情報発信力の一層の強化

【推進していく主な取組】

- ・ 北九州市総合観光案内所の案内機能・情報発信機能の一層の強化
- ・ 小倉駅JAM広場の一層の活用
- ・ 商店街などと共同した食のイベントなどの開催
- ・ 北九州市ならこれ！と言える新たな名物・おみやげものづくり

イ 小倉駅を挟んで南北の回遊性の一層の向上

【推進していく主な取組】

- ・ 小倉城周辺、あさの汐風公園など、駅南北で連動したイベントなどの実施
- ・ MICEや大型イベントへの来訪客に対する隙間時間に合わせた過ごし方の提案の検討

ウ 小倉駅に降り立った観光客に小倉城周辺まで足を伸ばしてもらうための一層の工夫

【推進していく主な取組】

- ・ 小倉城・小倉城庭園の魅力の一層の強化(小倉城武将隊などを活用した集客イベント、XR(クロスリアリティ)を活かした天守閣からの城下町再現など)
- ・ 駅周辺のデジタルサイネージ広告での小倉城とその周辺施設の露出強化
- ・ 駅から小倉城までの夜間景観の整備

エ 歴史・文化を体感できる、小倉のまち歩きの魅力向上

【推進していく主な取組】

- ・ まち歩きマップの更新
- ・ 小倉のまちの歴史に精通する専門市民ガイドの育成・登録の検討

(3) 取組のイメージ



3 皿倉・東田地区

北九州市の「現在」「過去」「未来」をすべて学び、楽しめる“まちごとミュージアム”『皿倉・東田』

(1) 地域の強み

ア 皿倉・東田のまちについて

都心部に隣り合っている皿倉地区は“もっとも身近な大自然”として市民に親しまれ、緑の木立をぬうように遊歩道も整備されています。山頂の展望台からは北九州市のまちなみが一望でき、夜は「日本新三大夜景都市」全国一位に認定された北九州市を代表する夜景が広がります。

東田地区は、世界遺産や西日本最大級の博物館である「いのちのたび博物館」、令和4年4月にオープンし、年間約800万人の来訪者を見込んでいる「ジ アウトレット北九州」など、徒歩圏内に文化施設や商業施設など、多くの集客施設が集積しています。

イ まちの魅力

(ア) 皿倉地区

- 昼は市街地を一望、夜は日本一の夜景を堪能できる好立地
- バリアフリーで山頂からの眺望を楽しむことができる
- 自然林が多く、軽登山や癒しの空間としてのポテンシャル
- 利用者満足度の高い西日本最大級のケーブルカー

(イ) 東田地区

- 幅広い層に愛され、学びの拠点としても活用されている質の高いミュージアム群(いのちのたび博物館、スペース LABO、環境ミュージアム、KGG(北九州グローバルゲートウェイ)など)
- 世界遺産「官営八幡製鐵所関連施設」、東田第一高炉跡などの産業革命遺産群
- 西日本最大級のアウトレットモール「ジ アウトレット北九州」

ウ アクセスなど

- (ア) 東田地区は全施設ともJR駅徒歩圏内のコンパクトさ、皿倉地区も駅からの無料シャトルバスを利用し手軽に行ける
- (イ) 車で20分程度で、河内藤園など自然に親しむことができる

(2) 課題と主な取組

自然や夜景スポットなどの魅力を持つ皿倉地区と、ミュージアム施設や商業施設が集積する東田地区は、それぞれ異なる魅力がありますが、皿倉・東田地区を訪れた人が市内の他の観光地も楽しんでいただき、より長く滞在してもらう工夫が求められます。

●皿倉地区

ア 小倉都心部などからのアクセスの向上

【推進していく主な取組】

- ・ 東田からのバスの運行体制の再検討を含む、小倉や東田などからのアクセス向上

イ 山頂周辺施設などの快適性の向上

【推進していく主な取組】

- ・ 施設・設備(トイレ、レストランを含む)のリニューアル計画の推進

ウ 山麓駅から山頂まで観光地としてのわくわく感の醸成

【推進していく主な取組】

- ・ 皿倉山全体のブランド力の強化(案内サインやロゴ、キャッチコピーなど)
- ・ 山頂での遊び場や天空ドームの設置による自然を感じられる空間づくり

●東田地区

ア 各ミュージアム施設の魅力の向上・域内施設同士を繋ぐストーリー化・発信力の強化

【推進していく主な取組】

- ・ 域内のミュージアム施設(いのちのたび博物館、スペースLABO、環境ミュージアム、世界遺産関連施設)のPR、案内機能の一元化の検討
- ・ エリア内の共通入場券(電子チケット)の販売の検討
- ・ 市立美術館や旧安川邸など近隣スポットとの連携の検討

イ 東田地区来訪者の皿倉地区への周遊促進に向けた一層の工夫

【推進していく主な取組】

- ・ エリア全体の発信力向上(北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」での皿倉・東田地区の特設ページの作成、分かりやすいエリア内マップの作成など)

ウ 東田地区内の回遊性の向上

【推進していく主な取組】

- ・ 東田大通り公園などを中心とした、歩いて楽しいウォークブル空間の創出

(3) 取組のイメージ



4 門司港レトロ・和布刈地区

九州最北端の港町リゾート『門司港レトロ』

(1) 地域の強み

ア 門司港レトロ・和布刈のまちについて

明治時代後半から欧州航路の寄港地や、満州などへの貿易船の着港により日本三大港の一つとして数えられ、重要な国際貿易の拠点となりました。

現在では、関門海峡が「関門ノスタルジック海峡-時の停車場、近代化の記憶-」として日本遺産に認定されるなど、門司の風景や観光資源は全国的に認められています。

当時の門司の繁栄を偲ばせる歴史的建造物の「旧門司三井倶楽部」、「旧大阪商船」、「旧門司税関」などが立ち並ぶJR門司港駅を中心にしたレトロなまちなみや、関門海峡を一望できる和布刈地区からの景観は、市内随一の観光スポットになっています。

イ まちの魅力

- 美しく雄大な関門海峡の景観
- 歴史的建造物が多く現存する大正ロマンあふれるまちなみ
- 日本夜景遺産に登録されている和布刈公園第二展望台や門司港レトロ展望室
- 大自然と豊富な歴史遺産のある和布刈公園
- 世界的にも珍しい歩行者専用の「関門海底トンネル」
- 豪華クルーズ船など国内外の船舶が寄港し、多種多様な人々が交流
- 出光美術館や門司港美術工芸研究所などアートや文化施設が集積
- 若者に人気がある清滝地区の路地裏探索

ウ アクセスなど

- 国指定重要文化財「門司港駅」から徒歩圏内
- 対岸の下関市までアクセスの手段が多様(連絡船、人道トンネル、関門橋、JR)
- 門司港レトロから和布刈公園まで観光列車「潮風号」が運行

(2) 課題と主な取組

門司港レトロ・和布刈地区には、関門海峡や歴史的建造物のまちなみなどの魅力を求めて現在でも多くの観光客が訪れています。

これからもより多くの観光客を魅了し続け、ファン・リピーターを作るためにも、新たな魅力の発掘や観光資源の磨き上げ、快適な滞在環境の整備などに取り組み、この地区自体の魅力の底上げを図ることが求められます。

ア 門司港の特色を活かしたブランディングの構築

【推進していく主な取組】

- ・ 新たなキャッチフレーズ“九州最北端の港町リゾート”の打ち出し
- ・ “港町リゾート”に似合う高級感のあるブランドデザイン(統一感のある案内標識、イベントのあり方)

イ 魅力的な地元資源の発掘・磨き上げ

【推進していく主な取組】

- ・ リゾートの雰囲気醸成するまちづくり(トロッコ列車沿線の植栽など)
- ・ 集客力のあるパブリックアートなどの整備(新浜地区の倉庫群を活用した壁面アートなど)

ウ 属性に応じた戦略的なプロモーションの強化

【推進していく主な取組】

- ・ 観光DXを活用したプロモーション戦略(IoTセンサー活用による行動実態データの把握など)
- ・ 清滝地区でアーティストが集う・住まう取り組みの促進

エ 滞在時間の長時間化

【推進していく主な取組】

- ・ 門司港レトロ～和布刈地区の水上交通の導入
- ・ 不足している休憩所やベンチの新設による周遊導線の拡張
- ・ 関門連携による新たな周遊ルートやイベントの開発

オ 多様なニーズに対応できる人材の育成・登用

【推進していく主な取組】

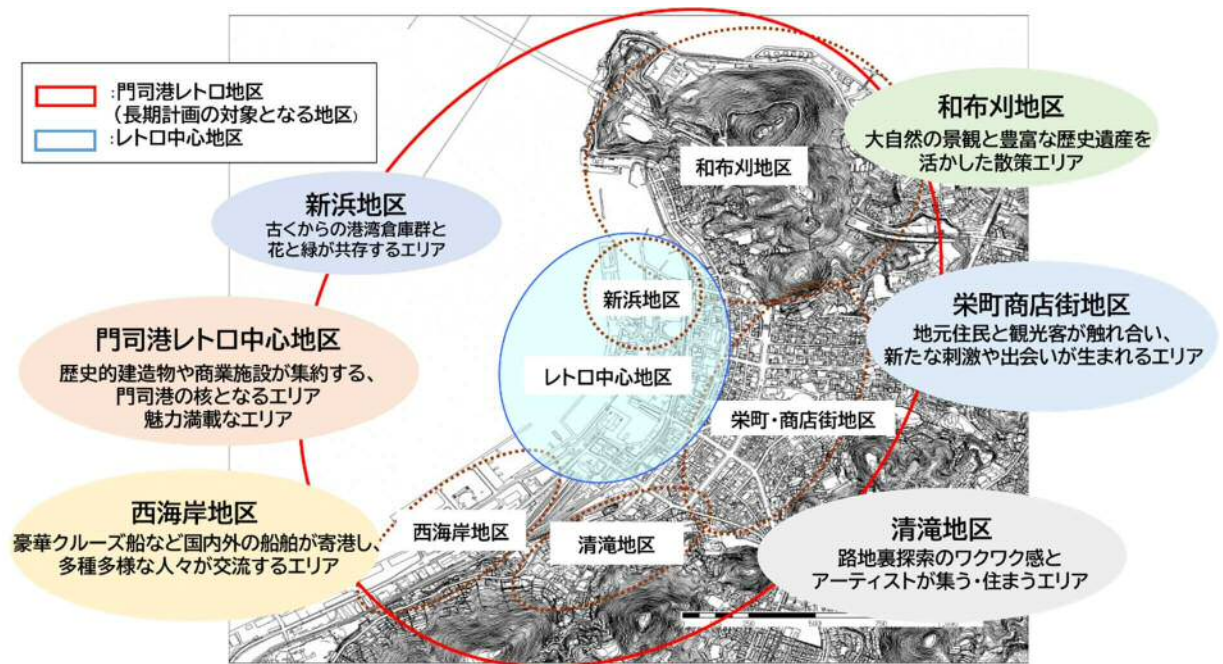
- ・ 民間企業、DMOなどと行政との人事交流
- ・ 来訪者のニーズに一貫して対応できる地域ガイドの育成

カ インバウンドの取り組み

【推進していく主な取組】

- ・ FIT(個人旅行者)の誘致強化
- ・ 複数の地域資源の掛け算による商品開発(トロッコ列車での日本酒の利き酒など)

(3) 取組のイメージ

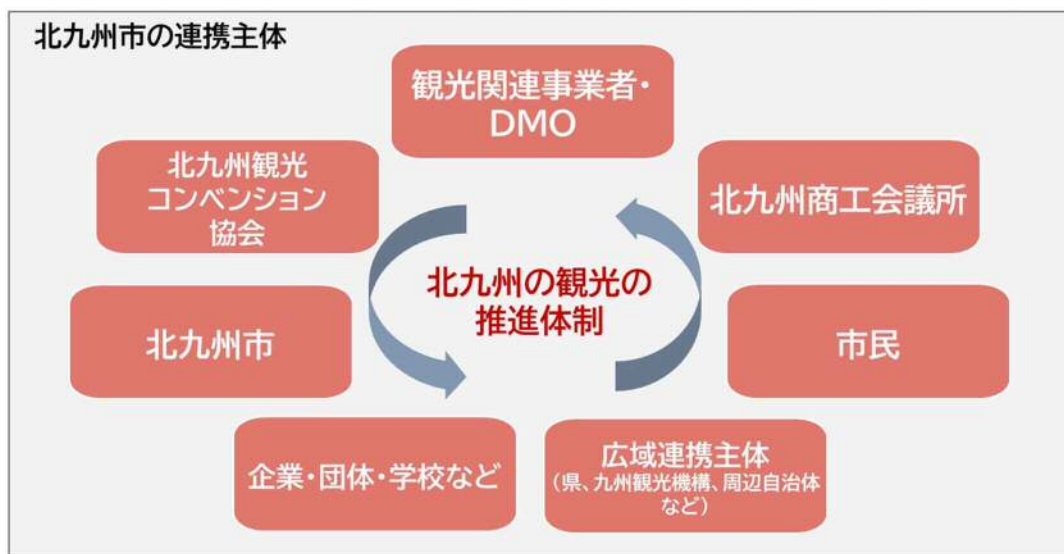


第6章 プランの推進に向けて

1 推進体制

「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市を目指すというプランの目指す姿の実現に向け、観光関連事業者・DMO、行政、北九州商工会議所、北九州観光コンベンション協会、企業・団体・学校、市民といった、観光に関連する様々な主体と連携していきます。

また、市役所の関係部局や、広域観光振興推進のための近隣自治体などとの連携も強化しながら推進します。



2 推進スケジュール

観光振興プランは、令和5(2023)年度から令和9(2027)年度の5年間のプランとし、取組の前半となる令和7(2025)年度までは、北九州市の観光をコロナ禍前(令和元(2019)年度)の水準に戻すことを目指します。後半の令和9(2027)年度までの KPI は、前半の取組状況、KPI の達成状況などを踏まえながら、再設定することとします。

3 プランの見直し、評価体制

観光振興プランの進捗状況の確認・評価や見直し・改善に向けて、有識者などから意見を求めています。特に、インバウンド需要などのコロナ禍からの回復、コロナ禍による社会変化など、まだ不透明な状況が続くことが予想されることから、こうした予測困難な状況に対応するため、必要に応じて戦略などの見直しや追加も適宜検討していきます。

資料編

I 統計データ、各種調査の実施・公開

使用データ

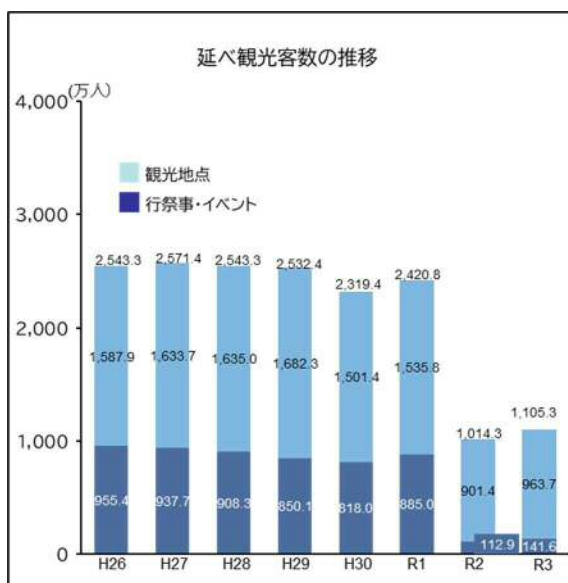
北九州市

- 北九州市観光動向調査

全国・福岡県

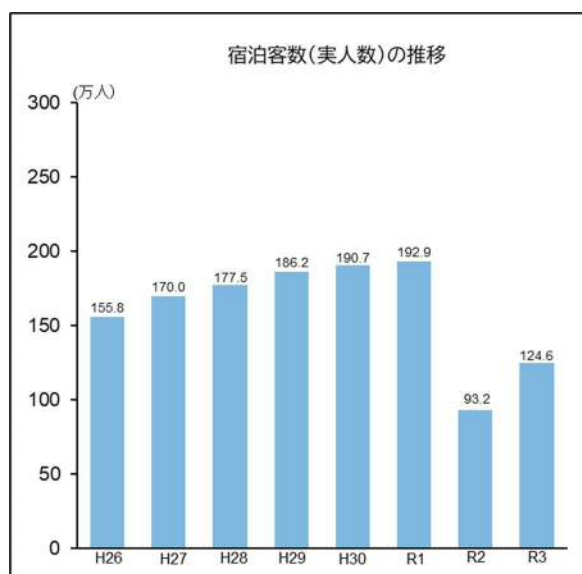
- 観光庁全国観光入込客統計に関する共通基準報告書
- 観光庁宿泊旅行統計調査

観光客数(延べ人数)



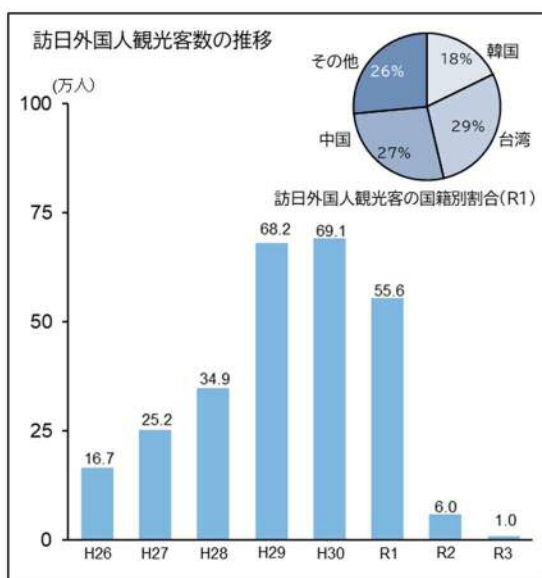
資料：北九州市観光動態調査

宿泊客数(実人数)



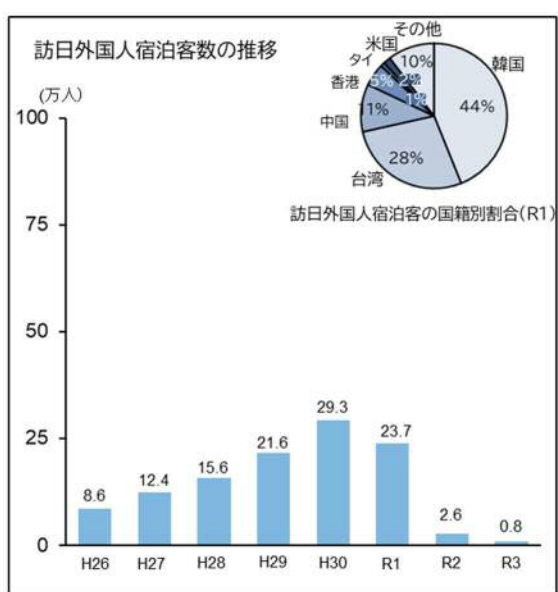
資料：北九州市観光動態調査

訪日外国人観光客数



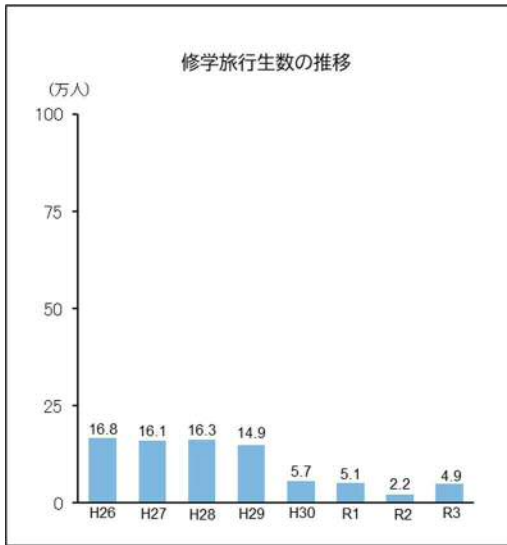
資料：北九州市観光動態調査

訪日外国人宿泊客数



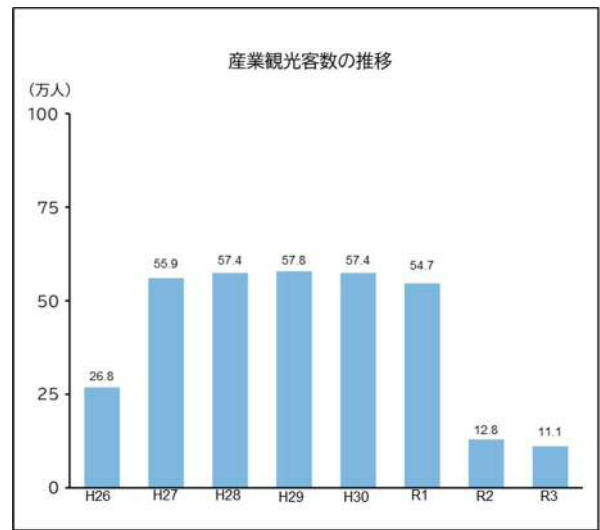
資料：北九州市観光動態調査

修学旅行数



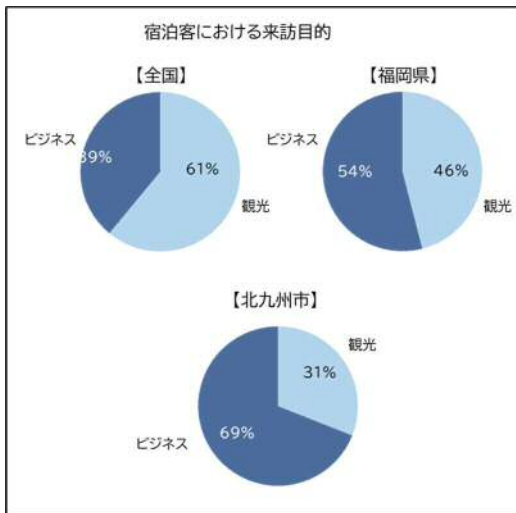
資料：北九州市観光動態調査

産業観光客数



資料：北九州市観光動態調査

来訪目的



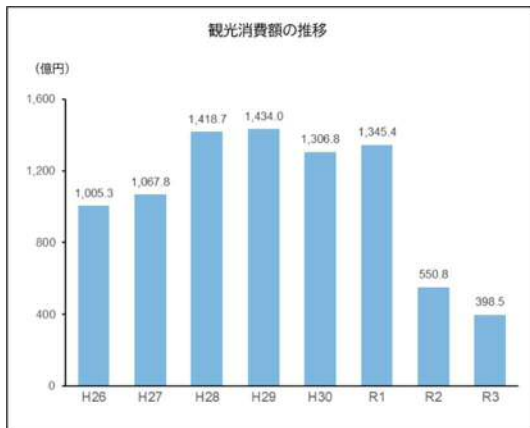
資料：【全国、福岡県】令和元年観光庁全国観光入込客統計に関する共通基準集計表
【北九州市】令和元年次北九州市観光動態調査

観光客の居住地



資料：【観光客の居住地】北九州市観光動態調査
【宿泊客の居住地】観光庁 宿泊旅行統計調査

観光消費額



資料：北九州市観光動態調査

2 観光振興プラン検討会名簿

(8名、五十音順、敬称略)

No.	氏名	所属・役職
1	入江 昭彦	北九州ホテル協議会 会長、 (JR九州ステーションホテル小倉(株) 顧問)
2	植田 詩生	北九州ノコト 編集長
3	後小路 雅弘	北九州市立美術館 館長
4	加倉井 良多	日本旅行業協会 九州支部 北九州地区委員長 (株)JTB 北九州支店長)
5	菅本 美空	西南女学院大学 学生
6	福島 規子	九州国際大学 現代ビジネス学部教授(観光学博士)
7	マッコームズ 夏野	北九州商工会議所 運輸交通部会企業 (株)スターフライヤー 営業本部マーケティング部シニアマネージャー)
8	南 博	北九州市立大学 地域戦略研究所 副所長

3 観光振興プラン検討会の開催状況

日程	検討内容
第1回 (令和4年7月12日)	・観光振興プラン策定にあたっての現状整理
第2回 (令和4年8月24日)	・市政モニターアンケート結果報告 ・観光振興プランの概要(案)
第3回 (令和4年11月22日)	・観光振興プラン(素案)
第4回 (令和5年2月予定)	・パブリックコメント実施報告 ・観光振興プラン(成案)

北九州市観光振興プラン

発行年月日	令和5年●月
編集・発行	北九州市(産業経済局観光課)
住所など	〒802-0001 北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 AIMビル4階
	TEL 093-551-8150
	FAX 093-551-8151